

美術科教育学会 学会誌『美術教育学』 投稿論文作成の手引き

美術科教育学会 学会誌編集委員会

1. 人権及び研究倫理の遵守について

1-1. 人権の尊重及びプライバシーの保護

投稿論文の内容及び研究手続き全般において、研究・実践対象者や協力者の人権の尊重及びプライバシーの保護に十分配慮する。例えば、写真の使用にあたっては、被写体となった人からの投稿・公刊の許諾を得る。

1-2. 著作権・版權等への配慮

図版等の掲載にあたっては、著作権・版權等に配慮し、著作権者等による転載の許諾を得る。

1-3. 研究倫理の遵守

投稿原稿は、オリジナル原稿でなければならない。剽窃、捏造、二重投稿などに抵触してはならない。既に公刊されたものや他の学会誌等に投稿中のもの(審査中のもの、印刷中又は印刷予定のものを含む)を別の学会誌等に投稿することは二重投稿となる。

1-4. 配慮ならびに遵守事項に関する書類の提出

上記 1-1 から 1-3 の事項については、編集委員会が以下のような書類の提出を求めることがある。

1-4-1. 研究協力者(調査対象者、被験者、観察対象者等)の「同意書」

1-4-2. 投稿論文中に使用されている写真の権利者、又は被写体となっている人(未成年者の場合はその保護者等)の「写真等使用許諾書」

1-4-3. 投稿論文中の図版、図表等の引用についての、著作権者等による「転載許諾書」

1-4-4. 投稿論文と関係のある、同一投稿者による公刊又は公刊予定の論文等のコピー

2. 書式に関する一般的な原則

2-1. 言語

用いる言語は原則として日本語とする(韓国造形教育学会との提携論文の場合は英語も可)。その他の言語については、編集委員会が個別に受付の可否を検討する。

2-2. 書式

投稿原稿の用紙は投稿原稿の用紙は B5 判(縦)横書きとし、各頁の下段余白中央に頁番号を明記する。

本学会公式ウェブサイトから、書式見本等をダウンロードして参照すること。

投稿原稿は厳密に組版通りの書式でなくてもよいが、本文と図表のレイアウトが適切であり、論文の総頁数と印刷の仕上がりをイメージできるとともに、査読者が精読しやすいように配慮する。

2-3. 表題・概要頁

2-3-1. 和文表題・副題

副題は、必要があれば表題の次の行に記入する。

2-3-2. 英文表題・副題

和文表題・副題から1行空きを取って記入する。必要があれば副題を表題の次の行に記入する。原則として接続詞・冠詞等以外の各語頭を大文字にする。副題を付ける場合は和文表題でよく用いられるような「―」は使わず、主題の末尾に「:」を付ける。

例) Politics of Teaching Art: (主題)

A Critique and a Proposal (副題)

2-3-3. 和文氏名

姓と名の間にスペースを入れる。和文氏名の頭(左)に「*」(上付きのアスタリスク)を付す。共同執筆の場合は、同様に、第二著者には「**」、第三著者には「***」を付す(同頁下部の「著者データ」と対応する)。

2-3-4. 英文氏名

姓・名の順とし、姓はすべて大文字で表記する。

2-3-5. 和文概要(350 字以内)

概要の目的は、「何を」「どのような方法で」「どのように」明らかにしたのか、研究の対象・方法・結論を簡潔に示すこと。例えば「〇〇を△△で検討し、□□の結論を得た」

というように、研究の対象・方法・結論(結果)を明記する。

2-3-6. 英文概要(150 語以内)

査読の結果、掲載が決定した後で提出するので、投稿時は空欄のまま提出する。

2-3-7. 和文キーワード(3-6 個)

キーワード間の区切りは「,」を使用する。

2-3-8. 英文キーワード(3-6 個)

キーワード間の区切りは「,」と半角スペースを合わせて使用する。

2-3-9. 著者データ

左段最下部に「和文氏名/和文所属先」「英文氏名/英文所属先」「連絡先」の順に記入し、和文氏名の頭(左)に「*」等を付す。職名は記さない。連絡先は原則として電子メールアドレスとするが、著者の判断で記載しなくてもよい。

2-4. 本文

2-4-1. 本文頁の文字数は 1 頁当たり 1,600 字(20 字×40 行×2 段)とする。

2-4-2. 本文の構成は、原則として「章」「節」とする。

2-4-3. 「章」は、半角アラビア数字+半角ピリオド+半角スペースに続いて章名を記す。第 2 章以降は前に 1 行空きを取る。章名の次にも 1 行空きを取る。

例:1. ○○○○

2-4-4. 「節」は、半角()で囲んだアラビア数字+半角スペースに続いて、節名を記す。節名の前後には空きを取らない。

例:(1) ○○○○

2-4-5. 必要に応じて、節の下位に「項」を設定できる。○で囲んだアラビア数字+半角スペースに続いて項名を記す。

項名の前後には空きを取らず、行替えもせず、項名のすぐ後に全角スペースを空けて、本文を記す。

例:①○○○○

2-5. 文字等

2-5-1. 句読点は「。」「,」を使用する。

2-5-2. 和文では、句読点や括弧等の記号を含め、原則として全角文字を用いる。

2-5-3. 括弧、カギ括弧、スラッシュ、ハイフンの類いは全角とする。

2-5-4. 欧文の文字及びアラビア数字は、原則として半角文字を用いる。

2-5-5. 2桁以上の算用数字は、半角文字を用いる(1桁の場合は全角)。西暦年号以外の4桁以上の数字は、3桁毎に「,」を付ける。

2-6. 人名表記

2-6-1. 投稿者自身の著書・論文について触れる場合は、「拙書」「拙稿」とせず、著者名を明記する。

2-6-2. 敬称は原則として使用しない。

2-6-3. 文中に同じ人物の名前が表示される場合は、原則として初出のみフルネームで表示し、2回目からは姓のみとする(複数の同姓の人名を表示する場合はこの限りではない)。

2-6-4. 外国人の人名表記は、原則として初出のみ()内に原綴りを記す。

2-7. 図表

2-7-1. 原則として、図表は本文中に貼り付け、段組の幅を基準とした統一感のあるレイアウトを心がける。

2-7-2. 学会誌はモノクロで印刷されるため、図表はモノクロで鮮明に表示されるように作成すること。

2-7-3. 本文及びキャプションには、原則として「図」あるいは「表」という表記を使い、「写真」「作品」及び「グラフ」等の表記は使わない。

2-7-4. キャプションの位置

2-7-4-1. 「図」:図の左端に合わせて左詰めし、図の下段に記す。

2-7-4-2. 「表」:表の左端に合わせて左詰めし、表の上段に記す。

2-8. 引用

2-8-1. 短文の引用(直接引用)

2-8-1-1. 引用箇所を「」で括り、地の文章の中で引用する。引用文中に「」が含まれる場合、その「」は『』に置き換える。

2-8-1-2. 引用文の末尾に句点があっても、地の文章がそのまま続く場合には、閉じた括弧の前の句点は不要である。

2-8-1-3. 引用文に関する註を適切な箇所につける。

2-8-2. 長文の引用(直接引用)

2-8-2-1. 引用文は、各行の左側を全角 1 文字分、字下げし、字のポイントを落として引用する。

2-8-2-2. 引用文は「」で括らず、引用文末尾の句点の後に() で文献情報(著者名・書名・論文名など)を記す。

2-8-2-3. 引用文に関する註を適切な箇所につける。

例)

山本は、大正 7 (1918) 年 12 月に、医者である父の開業地であつた長野県小^{ちいさがた} 県^{かんがわ}郡神川村大屋(現在の上田市)の神川小学校で、教員約 20 名を前にして「児童の絵画教育に就て」という次のような講演をした¹⁾。

私は児童の絵画教育を一変し度いと思ひます。臨本教育を廢して自由画の奨励に努めたいのです。私の此希望は、『学齡期前の児童の画はたいてい面白いが、それが学校へ通ふようになると皆悪くなつてしまう』といふ現象が、専ら臨本教育に由来する事を直覺した事から来て居るのですが、理論としても、大人の作つた一定のお手本に、児童の画的表現を導く事はいけない事です。(山本鼎「露西亜の外套」)

これがきっかけとなり、翌大正 8 (1919) 年 4 月に神川小学校で、第 1 回児童自由画展覧会が開催された。

2-8-3. 直接引用の共通形式

2-8-3-1. 文献から直接引用する場合には、原文に忠実に引用し、著者名・書名(論文名)・該当頁を、註によって明記する。

2-8-3-2. 引用文中に誤字・脱字がある場合は、原文のまま転記し、当該語句の上に

(ママ) とルビを付ける。

2-8-3-3. 引用文に強調の傍点がついている場合は(傍点原著者)と括弧書きし、原文にない傍点を引用者が打つ場合(傍点引用者)と区別する。

2-8-3-4. 原文に改行が多く、引用に際して行を詰めたい場合は、改行個所に「/」をはさんだ上で続けて表記する。

2-8-4. 参照(間接引用, 要約引用)

文献をそのまま引用するのではなく、要約したり著者の言葉で言い換えたりすることであり、この場合も参照した文献情報を註に明記する。

2-9. 註

2-9-1. 本文中の註は通し番号とし、¹⁾²⁾³⁾のように半角アラビア数字で表記し、右肩上付きとする。註と句読点が隣接する場合には、句読点の前に註番号を付ける(例 1)。また、カギ括弧等が付いた語句に対して註を付ける場合は、カッコ類を閉じた後に註番号を付ける(例 2)。

例 1).....は○○○であり ¹⁾, ○○○である ²⁾。

例 2)この「○○○○」³⁾とは

2-9-2. 註記と引用文献は、全て論文末尾に「註」で示す。註は本文の後に1行空きを取り、24 字×53 行の2段組で記す。

2-9-3. 註の表記は、原則として以下とする。下記に指定のない事項は投稿者に委ねるが、表記を一貫させること。

2-9-3-1. 和文論文の場合

著者名「論文名」『雑誌名』巻号等、(刊行者)、発行年、参照・引用頁。

*雑誌名で刊行者が明示されない場合は、巻号等の後に刊行者を入れる。

例) 江尾海太「美術」『大阪美術教育大学 教育学部紀要<社会科学>』第 50 号, 2020, p.12.

江尾海太「美術」『美術教育学』第 42 号, 美術科教育学会, 2020, p.12.

江尾海子「美術」『美術教育学研究』第 52 号, 大学美術教育学会, 2020, p.12.

江尾海子「美術」『美術教育』第 102 号, 日本美術教育学会, 2020, p.12.

江尾海子「美術と心理」『教育心理学研究』第 50 巻, 日本教育心理学会, 2002, pp. 389-399.

2-9-3-2. 和文単著の場合

著者名『書名』出版社名、発行年、参照・引用頁。

例) 三田寛二『図画工作』美術教育社, 2020, pp.26-31.

2-9-3-3. 和文編著の場合

著者名「論文名」、編著者名『書名』出版社名、発行年、参照・引用頁.

例) 三田寛子「図画について」、三田寛二編『図画工作』美術教育社、2020、pp.40-41.

2-9-3-4. 翻訳書の場合

原著者姓(姓名原語表記)、訳者名『書名』出版社名、発行年、参照・引用頁.

例) ローウエンフェルド (Victor Lowenfeld)、竹内清他訳『美術による人間形成』黎明書房、1963、pp.28-29.

2-9-3-5. 欧文論文の場合

Author, “Article,” *Title (Italic)*, Volume, (Number), Publisher, Year, Page(s).

例) Hanan A. Alexander, “Elliot Eisner’s Aesthetic Theory of Evaluation,” *Education Theory*, vol.36, no.3, 1986, pp.259-270.

2-9-3-6. 欧文単著の場合

Author, *Title (Italic)*, Publisher, Year, Page(s).

例) Elliot Eisner, *Cognition and Curriculum Reconsidered*, Teachers College Press, USA, 1994, p.13.

2-9-3-7. 欧文編著の場合

Author, “Article,” Editor, *Title (Italic)*, Publisher, Year, Page(s).

例) Howard Gardner, “Toward More Effective Arts Education,” in Howard Gardner & David Perkins (eds), *Art, Mind and Education*, the Board of Trustees of the University of Illinois, USA, 1989, p.160.

2-9-3-8. 直後に重複出現する場合

和文:同, p.○.(又は pp.○-○.)

欧文:*ibid.*, p.○.(又は pp.○-○.)

2-9-3-9. 間隔を置いて重複出現する場合

和文:著者姓, 前掲 註 1), p.○.(又は pp.○-○.)

例) ローウエンフェルド, 前掲註 1), pp.28-29.

欧文:Author, 刊行年, *op. cit.*, p.○.(又は pp.○-○.)

例) Howard Gardner, 1989, *op. cit.*, p.○.(又は pp.○-○.)

2-9-3-10. 同一著者による前掲文献が複数ある場合

著者姓, 前掲 註 1) 「文献名」, p.○.(又は pp.○-○.)

2-9-3-11. オンライン情報の表記

著者名, 記事等の表題・出版年等(文献の表記に準ずる), サイト名, アクセス年月日

〈URL〉 .

例) 美術科教育学会, 「美術科教育学会 会則」 1982 (2012 改正), 美術科教育学会 公式ウェブサイト, 〈<http://www.artedu.jp>〉, 2022 年 6 月 1 日閲覧。

以上